



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



わが歯科病院「文化」を築く

歯科病院長 岡野 友宏

世に「病院文化」という言葉はないかもしれませんが。文化とはある社会組織で皆に共有される固有の価値観と捉えることができます。ところで、昭和大学建学の精神は「至誠一貫」です。人の痛みが理解できる「奉仕」の志を持った臨床医家の育成を最大の使命としています。この精神に則り、歯科病院は「ひとの痛みを理解して、奉仕の心で患者さんの不安や悩みを取り除くように、真心のこもった医療を行います。」ということになります。多少の言い回しの違いはありますが、これが現在の歯科病院の理念になっています。理念は信条と言いつてもいいかもしれませんが。もう少し具体的に、積極的に自身のものとして捉えれば、「昭和大学歯科病院は患者さんに真心を尽くし、質の高い医療を提供することを最も大切な使命と捉えています。私たちは患者さんが安心できる環境の中で、患者さんの苦痛をいち早く軽減することをお約束します。昭和大学歯科病院は最先端の医療を安全に行い、その後の管理を含めて、患者さんが心から満足できるようにいたします。」となります。このような状況が日常的に実現するように努力する、ないしは実現しているのであればさらに改善を図ることになります。その過程で、歯科病院の「文化」が醸成されるといえましょう。私は「病院文化」という言葉があってもいいと思いますし、文化である以上、この組織に深く根ざしたものでなくてはなりません。鮮やかな花を咲かせるとき、栄養を蓄える時期があってもいいでしょうが、信条を代える必要はなく、その時々によさしい行動指針ともいべきものを書き換えていけばいいでしょう。歯科病院が発足してから35年になり、創設当初の教員はほとんどが退職されましたが、歯科病院の文化を受け継ぎながら、その確立を図りたいと考えています。ところで、歯科病院の利害関係者、まずは患者さん、そして地域社会。もちろん、学生や、職員も教学・事務を問わず含まれます。さらに広い意味での社会ないし不特定多数となる国民です。歯科病院はこの利害関係者に対して「責任」を負っています。この責任を全うするための理念ないし信条を先ほど述べましたが、信条を共有する各々の構成員が、診



療の質の担保や法令遵守、社会貢献などについての具体的な行動指針を自主的に考え、病院や大学のワークショップを通じて討論し、そして実行していきたいと思えます。

先日、歯科病院主催の歯科臨床研修の指導歯科医講習会がワークショップ形式で開催されました。年1回、主として開業歯科医が対象で、今年も全国から41名が参加されました。そこでファシリテータとして参加した若手の教授たち、長い時間をかけて培われた昭和の人材ですが、彼らの教育への思い入れと理解はすでに文化といえるレベルまで昇華していると誇りに感じたものでした。そしてこのワークショップを今後とも継続することは、わが歯科病院の社会貢献の一つになるとともに、それ以上に歯科病院の文化を築き支える一行事になると確信しました。歯科病院はこの数年、保険指導や世間に迷惑をおかけする出来事を経験し、これに適切に対応することで、これまで以上の信頼を得ることができました、そして強くなってきました。いま、新たな診療の構築や電子化で苦勞をしていますが、信条に立ち返ることで、この困難を乗り越えていきます。引き続きのご支援をよろしく願う次第です。

CBTワークショップが開催されました

共用試験CBT実施責任者 北川 昇

去る4月21日(土)に旗の台1号館5階 カンファレンスルームとPBLルームにおいて、平成24年度共用試験CBTワークショップが実施されました。医療系大学間共用試験評価機構から天野 修先生(明海大学教授)をタスクフォースにお招きし、宮崎歯学部長、井上教育委員長のご挨拶の後、ワークショップは開始されました。今回の参加者は21名。各講座からご多忙の中、出席していただきました。



午前中はA・L問題、午後はW・Q問題についてそれぞれのレクチャーの後、スモールグループに分かれて事前に作成してきた各問題のブラッシュアップを行い、その成果を発表しました。今回は若手の先生が多数参加され、各グループとも大変活発な討議が行われ、充実したワークショップとなりました。最後に参加者全員に修了証が授与され、採択率のアップを心に誓い無事終了しました。

活躍する同窓生

NTT 東日本関東病院歯科口腔外科 志村真理子

6回生の志村真理子と申します。勤務先の NTT 東日本関東病院ではドライマウスプロジェクトリーダーとして2つの仕事をしております。1つは歯科口腔外科に2000年に開設しましたドライマウス外来を担当し、口腔乾燥感、舌痛、味覚異常感などで悩む患者さんを拝見しています。ドライマウスはまだ保険上疾患としての扱いがないため、世の中での認知は低いのですが、患者の Quality of Life(生活の質)を低下させるほか、背景に膠原病が隠れていることもあり、歯科医が相談を受けることが多い症状です。2つ目は2009年に口腔ケア外来を開設、脳外科疾患、心疾患、呼吸器疾患、血液疾患など入院患者の口腔内の管理を任されています。誤嚥性肺炎の発症や造血幹細胞移植における感染予防には、口腔内の衛生状態が大きく影響します。さらに、癌治療では口腔内の粘膜障害により経口摂取が困難になり、栄養障害が起きてきます。NST(Nutrition Support Team:栄養サポートチーム)に参加し、医師、薬剤師、看護師、栄養士などとの関りの中で、口の健康を守ることは大切だと痛感しています。4月からは周術期や放射線・化学療法の際の口腔ケアが保険点数化されました。通院しながら治療を継続するケースも多く、これからは大学病院や総合病院などの高次医療機関と歯科開業医の連携がさらに必要となり、医療全体における我々歯科医の役割は重要になります。歯科医しかできない仕事はまだあります。皆さん頑張りましょう。



電子ポートフォリオ委員会が設置されました

歯学教育学部門 片岡 竜太

電子ポートフォリオは自己省察(self-reflection)を活用して、物事の習得を促し、実践能力を高める効果があり、世界で広く活用されています。省察は医療プロフェッショナルとしての自己を高める目的意識を伴った意識的な体験の見直しで、経験したことをさらに追求して、自分のものとしやすくなります。具体的には授業前に目標を立て、授業後に振り返り、自らの成長を確認します。

電子ポートフォリオの導入のメリットは2点あります。まず第1点は「歯科医師として求められる基本的な資質」として、極めて重要なコミュニケーション能力やプロフェッショナリズムなどの能力を身につける手助けになります。1年から6年まで継続的な指導を行います。電子ポートフォリオを用いて学生の過去の学びの様子を知った上で指導をすることができます。

2点目は学生が自らの成長を目の当たりにできることです。学生にはそれぞれ得手不得手があります

が、自らの成長を知ること、教員がその成長に気づかせてあげることが、学ぶ際の何よりの励みになります。電子ポートフォリオ委員会を中心に、歯学部の電子ポートフォリオの活用を検討し、学生と教員の関係をさらに密にしたいと考えています。すべての学生に自信を持って卒業をしてもらうためによりよくご指導、ご支援をお願いいたします。

オタゴ大学歯学部客員教授に就任しました

歯科理工学部門 柴田 陽

ニュージーランド、オタゴ大学歯学部の客員教授に就任し、4月から一か月ほど現地にて研究・教育活動に従事しました。オタゴ大学は今から140年ほど前、南島のダニーデンに設立され、国内唯一の歯学部を擁するニュージーランド最古の大学です。近年では、北京オリンピックで世界記録を乱立した高速水着レーザ・レーサーの開発拠点として知られています。5年ほど前、シドニー大学歯学部で留学した際、ご指導いただいた Michael V. Swain 教授がオタゴ大学歯学部の教授を兼任されている関係で、客員教授に推挙いただきました。シドニー大学時代に大学院生だったメンバー数人が、オタゴ大学で教員となっており、久しぶりに顔を合わせることができたことも収穫の一つでした。ニュージーランドは人口400万人の小さな国です。人口比からすると、歯学部は1つでもなんとかなりそうな気もしますが、卒業生の多くは経済状況のよいオーストラリアに流れ、国内は慢性的な歯科医師不足に悩まされています。またお隣のオーストラリアも歯科医師数は不足気味。新しく歯学部を作っているところですので、日本とは隔世の感があります。

研究発表を依頼されていたので、インプラントの基礎研究と骨再生について、学生・教員向けにレクチャーを行いました。Swain教授の宣伝のおかげで参加者も多く、昭和大はバイオマテリアルズの研究が強いとの好評をいただきました。経済規模の小さいオセアニアは、当然研究費も潤沢ではありません。また、農業大国のこの国では研究費の大半が agriculture に流れていると聞きました。厳しくなってきたとはいえ、日本が恵まれていることは間違いありません。特に本学におけるハードウェアの充実度は、おそらく世界レベルでも突出しており、歯学研究において世界に貢献できる立場にあります。海外の優秀な学生が昭和大を指名してくれる、そんな途方もない夢を見ながら本稿を締めくくりたいと思います。最後になりますが、今回お世話をしてくださった Department of Oral Rehabilitation の皆様、常勤スタッフには厳しいけど私には優しくしてくれた Department Head の Thomas B. Kardos 教授にあらためて感謝いたします。本当にありがとうございました。



学術振興会 二国間交流事業に参加しました

口腔生化学講座 高見 正道

日本学術振興会は、海外との持続的な研究ネットワーク形成を目指した国際共同研究を推進しています。私はその助成により、韓国ソウル市にある淑明女子大学校(淑大)の林(Yim)教授と共に、硬組織が持つ免疫機構の解明に取り組んでいます。細菌などの微生物が歯や骨などに感染したとき、宿主細胞が発揮する防御作用を明らかにするのが目的です。約二年間、遺伝子改変動物などを利用して解析をおこない、微生物感染から硬組織を守る重要な遺伝子の同定に成功しました。現在研究は山場を迎え、6月に大学院生3名と訪韓して今後の戦略を練る予定です。



淑大は1906年に設立された韓国初の女子大学として知られ、学生は優秀で礼儀正しく、学食で私に気づくと箸を置いて起立したり、遅刻すると校庭を走らされたりします。その様子を見て、昔の日本を連想させる「しつけ」に対する厳しさを感じました。そんな学生たちが過去の日韓関係をどのように捉えているのかはわかりませんが、いつも私を大歓迎してくれます。次で4度目の訪韓となりますが、研究もさることながら教育についても毎回考えさせられております。

ブリティッシュコロンビア大学への春季交換プログラムに参加しました

歯学部 4年 大原 千明

私は2月25日～3月14日、カナダ・バンクーバーにある University of British Columbia (UBC) 歯学部の海外研修に参加しました。

私は月・水・金の2時間、1年生のPBLに参加しました。昭和大学のPBLのように司会・書記を役割分担せず、自発的に役割を受け持つことでチームとしてまとまっていた。PBLのシナリオは医学部と同じで、討論するうちに、将来自分が患者さんにどう対応すべきかという歯科医師の観点にまで議論が展開していくことに感激しました。例えば狭心症のシナリオでは、抗凝固剤を服用しているから抜歯の際の出血に気をつけるとか、治療の際モニタリングするべきだということまで話が発展しました。UBCの学生が臨床家としてのビジョンを常に意識しながら学んでいる姿に、強く感銘を受け、自分がどのような歯科医師になりたいのかというビジョンを持つのはとても大切なことだと思いました。目標を持って臨めば、全ての学び



が自分の将来像のヒントになると感じました。

このような素晴らしい機会を与えてくださった両大学の先生方、サポートしてくださった全ての方々に感謝します。

科学研究費補助金が内定しました

研究活動委員長 上條竜太郎

去る4月1日、文部科学省と日本学術振興会は、平成24年度科学研究費補助金の交付内定を公表しました。昭和大学全体では採択件数212件、採択金額は3億310万円でした。歯学部の交付内定状況は下表の通りで、交付内定件数は増加したものの、交付内定金額は昨年度と比較して若干の減額となりました。なお、歯学部の交付内定金額は、昭和大学全体の交付内定金額の47.5(昨年度は49.5)%にあたります。

昨年度日本学術振興会は法改正により学術研究助成基金(以下「基金」)を新設し、基盤研究C、若手研究B、挑戦的萌芽研究、そして一部の基盤研究B(新規課題のみ)は本基金から研究費が交付されています。それに伴い、会計年度にとられない契約が行えるとともに、研究の進展に合わせた研究費の前倒し又は次年度使用など、柔軟な執行が可能となります。ご不明な点は、歯学部研究活動委員会、財務部研究助成課にお問い合わせ下さい。

平成24年度 歯学部 科学研究費内定状況

	平成23年度		平成24年度			
	新規	継続	新規	継続	内定金額	
基盤研究A	0	0	0	0	0	
基盤研究B	3	2	29,300	1	4	23,100
基盤研究C	14	25	50,500	13	25	46,800
若手研究B	18	21	52,700	23	19	58,300
研究活動スタ	4	8	13,920	申請中	4	4,800
萌芽研究	4	1	6,900	4	4	10,100
合計	43	57	148,120	41	56	143,100

(内定金額は新規・継続の合計で、単位は千円)
(採択金額は直接経費のみ)

昇任・採用

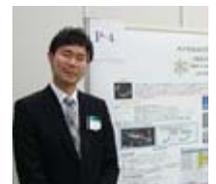
広報委員長 井上 富雄

吉村健太郎(助教, 口腔生化学), 浅川剛吉(助教, 障害者歯科学), 小林茉莉(助教, 歯科補綴学)

指導医取得・受賞

広報委員長 井上 富雄

- ・日本小児口腔外科学会認定医指導医 取得
島田幸恵(小児成育歯科学)
- ・第50回日本小児歯科学会大会優秀発表賞受賞
杉山智美(小児成育歯科学)
- ・日本歯科CAD/CAM学会優秀賞
受賞
浦野慎二郎(歯科補綴学)



第1回 補綴若手研究会が開催されました

大学院2年 (歯科補綴学) 松本 光史

3月3日-4日にかけて、広島県、宮島の宮島商工会館で行われた「第1回 補綴若手研究会」に参加してまいりました。

本勉強会は、昭和大学、広島大学、岡山大学、鶴見大学、九州歯科大学、長崎大学の計6校から教授引率のもと、大学院生、学部生が広島県の宮島商工会館に集まり、各大学から代表者3名ずつ、研究発表を行いました。昭和大学からは4年生の松本貴志先生、3年生の秋山智人先生、医員の安部友佳先生が研究発表を行いました。

宮島という特殊な環境でしたが、他大学の大学院生の研究発表を聞くことは、私たちにとって、とても良い刺激になりました。また、同年代の方との勉強会ということもあり、研究についてもお互い話やすく、リラックスした雰囲気勉強することができました。会場は厳島神社のすぐ近くで、夜はライトアップされた鳥居を見ることができ、大変貴重な経験をさせて頂きました。このような機会を与えて下さった馬場教授をはじめ、各大学の先生方に、心より感謝を申し上げます。



行事予定

広報委員長 井上 富雄

- 6月 1日 医・歯・薬学部 防災訓練
- 6月16日 父兄会総会
- 6月23・24日 富士吉田寮祭
- 6月24日 富士吉田オープンキャンパス
- 7月 7日 昭和歯学会総会
- 7月13日 夏季スポーツ大会壮行会
- 7月24日 4学部合同入試説明会
- 7月29・30日 歯学教育者のためのワークショップ
- 7月31日～8月2日 昭和大学教育者のためのワークショップ

診療統計(平成24年 4月分)

医事係長 村田 久子

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	17,578	732.4	818.2	684.8
入院患者	323	10.8	15.1	11.7

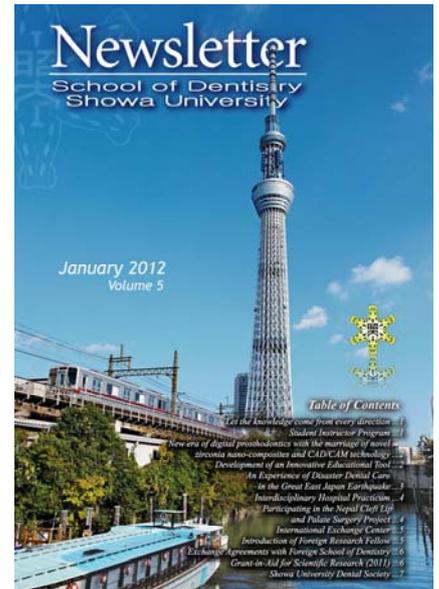
英文 Newsletter vol. 5 発行

広報委員長 井上 富雄

歯学部英文広報誌 Newsletter も今年で第5号となりました。表紙は今話題のスカイツリーですが、そのもとには屋形船がゆったりと流れ、先端文明と古い歴史が混在する現代日本を象徴するものとなっています。

掲載記事の内容は、岡野学部長の巻頭言、チューデントインストラクタープログラムの実施、新たなジルコニア材料を用いた補綴物の製作、バーチャルペーシェント・シミュレーションシステム、東日本大震災医療救援隊派遣、学部間連携病棟実習、ネパール口唇口蓋裂手術プロジェクトへの参加、海外研修生の紹介、国際交流センターの活動、科学研究費補助金等の競争的外部研究資金の獲得状況、昭和歯学会報告です。

Newsletter 第5号は海外学部間提携校や国内の4大学交流校を始め、昭和大学医・歯・薬・保健医療学部と富士吉田教育部、さらには附属病院などに配布すると共に、昭和大学歯学部ホームページ http://www.showa-u.ac.jp/sch/dent/dent_letters/index.html に掲載いたしましたので、是非ご覧いただければと思います。また、別刷りは国際交流センターに保管をお願いいたしましたので、是非、海外交流などの際にはお問い合わせいただき、ご活用いただければと思います。英文広報委員長: 宮崎 隆(歯学部長), 井上富雄(広報委員長), Michael W. Myers, 堀田康弘, 松田幸子, 野中直子, 坂井信裕, 滝口尚(敬称略)



編集後記

口腔衛生学部門 弘中 祥司

ついこの間まで建設中だった東京スカイツリーもこの5月22日からの開業で、また一段と東京もにぎやかになっていく事と思います。皆様はもう634mを体験したでしょうか?これから関東は梅雨の時期に入りますが、6月中は東京スカイツリーの予約はまだまだ余裕があるようです。確かに梅雨空ではせっかくの夜景も残念ですが、上る価値はありそうですね。ぜひ体験談でも広報委員へお寄せください。まあ、高い所が苦手な私には関係ない話ですが。